京都大学人文科学研究所
Institute For Research in Humanities, Kyoto University

博古書研究院 中国

EAA 東アジア藝文書院

立命館大学

国際シンポジウム

未来哲学の構築に向けて

漢語哲学、東アジア哲学、世界哲学から

近年、日本、韓国、中国の間に新たな哲学研究の動きが現れ、漢語哲学、東アジア哲学、世界哲学はもっとも代表的なものである。この三つのアプローチは過去の哲学の整理や比較に止まっておらず、それぞれ現代社会が直面している課題などを思索しながら、哲学の未来における発展の形を提案している。漢語哲学、東アジア哲学、世界哲学に携わる学者を一同に招待し、ともに哲学の未来、未来の哲学や未来の社会について考察することを目指すものである。

登壇者順

森本淳生
京都大学人文科学研究所所長

宋冰
バーグルエン研究院院長

韓水法
北京大学哲学系教授

孫向晨
復旦大学特聘教授

Fabian Heubel 何乏筆
台湾中央研究院中国文哲研究所研究員

林明照
台湾大学哲学系教授

廖欽彬
中山大学哲学系教授

福家崇洋
京都大学人文科学研究所教授

納富信留
東京大学大文社会系研究科教授

張政遠
東京大学総合文化研究科教授

高在錫
成均館大学本科学院教授

史淑穎
バーグルエン研究院中国センター主任

亀井大輔
立命館大学文学部教授

永田知之
京都大学人文科学研究所副教授

2026
11/21(土) 09:00 18:00

京都大学人文科学研究所
分館2F大会議室

日程

09:00-9:20 開会挨拶
森本淳生 京都大学人文科学研究所所長
宋冰 バーグルエン研究院院長

09:20-12:00 セッション1:【漢語哲学】 一人20分発言
韓水法——漢語哲学の任務と使命
孫向晨——漢語世界と漢語哲学の任務
何乏筆——自己と異者とのあいだ:ヘルダーリンとハイデガーにおける「家」なき哲学
討議40分

12:00-13:00 昼休み

13:00-14:40 セッション2:【東アジア哲学】 一人20分発言
林明照——事から物へ:『荘子』における技芸をめぐる物語の倫理的意義
廖欽彬——東アジア哲学思想の事始め
福家崇洋——アジア連帯と日本:宮崎滔天・龍介を中心に
討議40分

14:40-15:00 休憩

15:00-16:40 セッション3:【世界哲学】 一人20分発言
納富信留——日本における世界哲学の試み:その特徴と問題点
張政遠——哲学地図と東アジア哲学
高在錫——グローバル文明言説の哲学的再構築:「関係的多様性」(Relational Plurality)を中心に
討議40分

16:40-17:00 休憩

17:00-17:50 総合討議

17:50-18:00 閉会挨拶

通訳:廖欽彬、張政遠、孔德湧